

氏名	興 津 輝
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1386 号
学位授与の日付	平成7年3月31日
学位授与の要件	医学研究科 外科系外科学（一）専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Analysis of Deoxyspergualin-Induced Host Resistance to Graft-Versus-Host Reaction Induced with Small Bowel Transplantation in Rats(ラットにおける小腸移植を用いた Deoxyspergualin誘導性のGVHRに対する宿主抵抗性についての解析)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 清水 信義 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ラット小腸移植GVHRモデルにおいて免疫抑制剤であるDSG投与によりGVHRは抑制され、宿主が長期に生存しうることをすでに報告した。今回、この長期生存宿主にドナー脾細胞の腹腔内移入を行って、GVHR抵抗性の有無を検討した。脾細胞移入は小腸移植後30日、60日、100日目に行われた。脾細胞移入が術後30日目の群では、全ての宿主(n=5)が脾細胞移入後100日以上生存した。しかし、脾細胞移入を60日目まで延長すると、1/6に長期生存がみられたのみであった。100日目では1/8が長期生存した。すなわち、ラット小腸移植GVHRモデルで、DSGにより抑制された宿主にはドナー免疫担当細胞に対する抵抗性が小腸移植後30日目まで認められた。小腸移植の代わりに脾細胞移入を最初のGVHRを惹起するものとして用いると、抵抗性は60日目までほとんどの宿主で認められた。さらに、この抵抗性の特異性について検討したところ、術後30日目では、小腸移植においても脾細胞移入においても非特異的であることが分かった。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、ラットにおいて小腸移植の際に惹起されるGVHRのDeoxyspergualin (DSG) による抑制効果を検討したものである。この結果、移植後10日間のDSG投与で、GVHR惹起能は約30～60日間抑制されることを示した。また、この効果は、脾細胞移入に伴うGVHRにも認められた。これらの知見は、新しい免疫抑制剤であるDSGの作用機序の解明とその移植への応用の上で重要であると考えられる。よって本研究者は、博士(医学)の学位を得る資格があると認められる。